



多世代の方が参加され、満席の会場ではスライドを使いながらのお話に共感し、時には笑い声や拍手が起こるなど、熱心に聞き入っている様子が印象的でした。

月4回のツアーアテンドも楽しく明るくがモットーです。能登の復興を応援していただくためには、被災してしまった能登を見て、目に焼き付けていただくことが大切だと思っています。だから私も



東北楽天ゴールデンイーグルス元監督、今江敏晃さん、ゲストとして福島県から「いわきワイナリー」四家麻未さん、司会にトミドコロさんをお迎えしての開催でした。いわき市の少年野球のこと、福祉への取り組み、ワイナリーとの縁など、野球人ならではの交流を語りました。

ある日、壊れた酒蔵の片づけをし



輪島市「波の花」 極寒の海の風物詩

冬、海岸を埋め尽くす「波の花」。荒々しい波が岩に打ちよせ、白い泡になって雪のように舞う光景も見事です。

能登の「イマ」を知る。「わたす日本橋」が能登一色になった日。



「わたす日本橋」はオープンから10年を迎えました。 Vol.10 2025年9月1日発行第10号 発行元：わたす日本橋

能登半島は2024年元日に発生した巨大地震、同年9月の豪雨と、甚大な被害を受けました。5月17日に開催された、第3回「能登半島支援会×わたす日本橋」のトーク&イートイベントでは、スピーカー2名様に「能登のイマ」をお話いただきました。

TALK GUEST① (一社)能登半島広域観光協会 広報 能登デスク 中山智恵子さん

能登に観光に行っているのか、行けるのかと迷っている方々に、どんな情報を発信しています。

本日まで参加いただいたみなさまの中で、震災後の能登に行ったことがある方はどれくらいいらっしゃいますか？…結構いらっしゃいますね。でもまだ、能登の現状がわからないために、どこまで行っているのか、どうやって行けるのかわからないと思ってしまう方も多いと思います。その迷いや懸念を無くすために、私たち能登半島広域観光協会と石川県と石川県観光連盟でどんな情報発信をしているかと。その想いから「能登デジタルマップ」も開発しました。スマホでQRコードを読み込めば、観光スポットや宿泊施設、飲食店情報などが見られます。ご自宅でも現地でも、リアルタイムの情報が見られて、便利にお使いいただけます。

現地に行つて、現地の状況を声として届けることを大切にしています。震災後も「能登島水族館」や珠洲市の「道の駅すずなり」さんなどいろいろなか場所に向つて、声を届けています。そのために、能登へ来てもらうための取り組みをさらに加速させています。夏のシーズンには月4回ものツアーが入るほど。みなさんとともに能登に行く際には「明るく楽しく」をモットーにツアーバスのアテンドをしています。ずっと変わらない能登、変わっていく能登、全部ひっくるめて好きと言っていたら、いろいろな能登を見ていただければと思います。



今いける能登 デジタルマップ

TALK GUEST② 石川県鳳珠酒造組合 理事 櫻田酒造 蔵元 杜氏 五代目 櫻田博克さん 五代目予定 櫻田慎太郎さん

珠洲市蛸島に根付いて酒造りを続ける老舗酒蔵。地震では酒蔵が全壊。

そんな中で大地震が起き、輪島市や珠洲市、能登町は甚大な被害を受けました。私の所属している鳳珠(ほうす)酒造組合の酒蔵もほとんどが全壊してしまいました。



輪島市「白米千枚田」 棚田の夜を彩るイルミネーション

奥能登 秋景色 冬景色

能登半島は山地や丘陵が多く、日本海を背景に独特の美しい景観を見せています。

中でも、海に面した斜面に1004枚もの田が連なる「白米千枚田」は絶景。秋冬のイルミネーションイベント「あぜのきらめき」も人気です。

南三陸の1と(2)

大場 黎亜 (南三陸在住)



7月30日朝、一斉に家族のスマホからアラート音が鳴り響きました。揺れない中突然だったため何事かと慌てましたが、続いて防災無線から、カムチャッカ半島で起きた地震による津波警報とアナウンスがありました。2011年に東日本大震災で壊滅的な被害を受けた私の住む南三陸町でも、緊張感が走りまわりました。しかも、発令後にマグニチュード8.0から8.7に変更し、さらに津波が大きくなる可能性が高まりました。

町の初動は、早かったように思います。1時間以内には主要な避難所を開設し、災害対策本部の会議が開かれ、その後津波に対応する避難所を全て開設。大規模な高台移転をした町なので自宅なら安心という方も多し、町内12ヶ所の避難所に300人以上の方が避難し、町内各地の商業施設も、従業員の安全等を考慮し、営業を中止していました。

私は、テレビから流れ続ける注意喚起に耳を立てながら、これまでの震災時のことを思い出していました。東日本大震災以降も何度か大きな揺れや津波警報があり、震災から間もない頃は「あの日思い出す」とストレスを感じていました。



2025年7月の志津川海



いろいろなイベント開催＆参加しています。詳しくは @ でどうぞ

25年4月19日



今江敏晃さんのトークショー 東北楽天ゴールデンイーグルス元監督、今江敏晃さん、ゲストとして福島県から「いわきワイナリー」四家麻未さん、司会にトミドコロさんをお迎えしての開催でした。いわき市の少年野球のこと、福祉への取り組み、ワイナリーとの縁など、野球人ならではの交流を語りました。

Watasu Gallery 秋冬 わたすギャラリーから



秋からの企画は「心と手の温もりがつむぐ未来へのストーリー」。ただ被災してしまっただけでは終わりにたくない。教訓を次に生かす、次世代に繋ぐ、ライフシフトを図る。…最悪の状況からヒントを得た、立ち上がった人たちの物語を紹介しています。

25年5月28日

秋田の日本酒の専門家を迎えるその魅力を味わいました。「東北の地酒・日本酒セミナー」。今回は、秋田県総合食品研修センターの上原智美さんをお迎えしての開催。開発中の酵母の話に、皆さん興味深く聞き入っていました。



25年6月14日

輪島市、元木大介さん & 「わたす日本橋」炊き出し NPO法人MOTOKIFUNDATION代表、元プロ野球選手、元木大介さんの声かけで輪島市へ炊き出しに伺いました。元木さんとの



25年8月22日

輪島市と仙台市から2つのワイナリーを迎えて。



輪島市ハイウェイワイナリーと仙台市秋保ワイナリーのワインを能登と宮城の食材を使った食事イベントにアレンジしたディナーイベント。メインには輪島のジビエ(猪肉)が登場。代表2人のお話しと共にワインを通じた、豊かな時間になりました。

次の10年のために

「わたす日本橋」有松 大輔



皆様のご協力もあり、旧店舗の時代も含めて「わたす日本橋」が設立されてから、今年で10周年の節目を迎えることができました。被災地の「今」や復興への取り組みなどの発信を東京日本橋の店舗を中心に行っており「わたす日本橋」の取組みは、東北地方だけにどまらず、能登半島や九州地方をはじめ、日本全国にその輪が広がっています。残念ながら災害を完全に無くすことはできませんが、被災を乗り越えて奮闘されている方々の話に触れることで、皆様の日々の暮らしの中に何か気づきをもたらすことができたいと思ひながら活動を行っております。「わたす日本橋」としてももちろんですが、個人としても、できることを少しずつコツコツと積み上げていくことを大切にしながら、長いようである「次の10年」をより充実したものにするよう、邁進してまいります。



編集後記

わたす担当をきつかけに、防災を自分事として捉えるようになり、防災に役立つ情報や被災地の魅力発信を、これからも続けていきたいです。☀️☀️暑い夏でした。南三陸の海で伊勢海老が獲れるようになったと伺いました。温暖化対策、自分ができることをコツコツやろうと思ひます。☁️☁️台風や大雨！自然災害が多く発生する9月は防災月間。あらためて我が家の防災対策について見直したいと思ひます。(副編集長Y)「わたす」新聞初参戦記事を通じて、全国の被災地で前を向く皆さんの力になればいいな。(ど)の「南三陸町の夏はお祭りがいっぱい。お手伝いしながらも打ち上げ花火を3回観て、夏を満喫しています！」(ねぎ畑)「久々の熊本訪問。口々に語られる深い郷土愛に胸熱でした。」(ささ)「熊本の豪雨による被害の2週間後に取材に行き、その後また水害。明日は我が身。常に備えをしておきたいです。(やっさん)



わたす日本橋 https://www.watasu.net TEL. 03-3510-3185



2016年4月に発生した熊本地震。2度にわたる震度7の激震。死者211名、全半壊家は約42,000棟。さらに、2020年7月には令和2年熊本豪雨が発生。地震被害の大きかった地区を再び大災害が襲いました。その後も毎年のように起こる水害と向き合い、いつくらかわらない自然災害に備える、熊本県。9年ぶりのレポートです。

熊本特集だった「わたす新聞」9年前の創刊号
https://www.watasu.net/known_see_connect.html

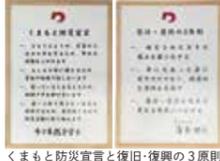


地震・豪雨・火山噴火…、数々の災害経験から学ぶ、熊本県防災センター

県庁の一角、防災センター展示室は「防災」を核に、2016年熊本地震と令和2年熊本豪雨を中心に、構成・展示しています。数々の自然災害に遭遇してきた熊本県ならではの説得力、わかりやすさ、防災用品の具体的展示の数々。その熱い情報発信に見学する側も力が入ります。



防災への関心が高く、家族連れも多く訪れる。



展示室にはマスク型3D体感装置があった、こんなアイマスク姿の人がいっぱいいます…くまもと防災宣言と復旧・復興の3原則

熊本地震の記憶を未来へ遺し、学ぶ。「熊本地震震災ミュージアム記憶の回廊」

南阿蘇市にある、旧東海大学阿蘇キャンパスは、2023年7月から「熊本地震災ミュージアムKIOKU」として公開されています。この他にも県内9市町村（上記地図）に震災遺構の展示があり、それらを「震災ミュージアム記憶の回廊」として巡る、フィールドミュージアムを構成しています。



地滑りに巻き込まれた車の展示。壁の写真とともに、当時の様子が生々しく伝わる。



遺構として保存されている校舎。外壁はひび割れ、屋内は崩れ、痛々しい。

阿蘇の景観に溶けこむ美しい建物。ここで震災の記録展示をみて「記憶の回廊」巡りをスタート
<https://kumamotojishin-museum.com/>



「みんなの家」は建築家が発案したプロジェクトだから、外見もおしゃれ。美しいデザインは気持ちも元気にする。

東北からはじまった「みんなの家」

東日本大震災後、仮設住宅に魅力的な集会所を作ることで住民の孤立を防ぐことを目的とした「みんなの家」プロジェクト。熊本でもこの考えは引き継がれ、県内に「みんなの家」は84棟建てられました。その後、移築・改修などしながら、現在も70棟以上が復興住宅の集会所などに活用されています。

美しい町の面影を後生に、本町通り「御船街なかギャラリー」

白壁土蔵造りの酒蔵や商家などが立ち並ぶ御船町の中心地だった本町通り。震災後、多くの建物が取り壊しになる中、町の人たちの熱意で築200年のこの建物を修繕しギャラリーとして公開。通りの面影を守りながら、御船町の象徴になっています。



町の歴史がわかるギャラリー、地元のコミュニティ施設として活用。成人式にはこちらの和室で写真撮影会が行われているそう。

熊本城、阿蘇神社など、文化財の再建



至るところに、足場が組まれている熊本城。



全壊から復旧された阿蘇神社山門、真新しい木と古い木が混在することで神聖さが増している。

遠くから見ると昔のままに見えた熊本城。近づくにつれて、崩壊した石垣、半壊した櫓が現れ、その被害の大きさに驚かされます。城郭全体の完全な修復完了は30年近くかかるそう。それでも本丸など、主要施設は一通り見学が可能で、早朝から多くの観光客が訪れていました。また、山門と本殿が全壊した阿蘇神社、崩落により巨石が直撃した瀬田神社、こちらは現在までに、修復・再建されています。

直撃した巨石を残しておき、隣に再建した瀬田神社、その巨石も奉ってました。



今年8月、記録的大雨が発生

2025年8月6日からの大雨では、全国10県が被害を受ける大規模水害になりました。熊本県では、1時間で110mmの猛烈な雨を記録。海沿いの市町村を中心に土砂崩れ、河川の氾濫、大規模浸水が起り、床上・床下浸水など住宅被害は5500棟以上、現在も県内10カ所の災害ボランティアセンターが開設されています。



被災した家財道具、県内各所に臨時置き場が設置されている。

よしみちお茶っ子

御船町 たしろ食堂。食をとおして、地域のつながりを守る。

屋になると、どこからともなく人がやって来て、あっという間に満席に。創業80年を超えるたしろ食堂。お母様と弟さんの3人で「たしろ食堂」を切り盛りする丸山美奈子さん。この食堂を拠点に月に一度、地域・子ども食堂「ごはん日和」を開いているという美奈子さんにお話を伺いました。「…私、以前は特に地元愛が強い程でもなかったんです。でも9年前地震が起きて、町も人も大変なことになって…、そんな状況の中で言いようもない地元愛が溢れ出てきたんです。それで自分も何か地域のため、人のためにできるはずだと思って、最初は食器を集めて、仮設に移される方へ配る活動をしました。そして、震災半年後に、『御船町・

感動祭』という感謝イベントを開催して、その後2017年の夏に「ごはん日和」をはじめました。皆、住環境も変わって近況もわかりにくい、だから月に一度、集まる機会を作りたいと思ったんです。引きこもりがちなお年寄りも顔を出すことで『安否確認』にもなります。最初の開催では地域住民300人の大宴会のようでした。その時のみんなの笑顔は本当に嬉しかったです。御船町はその後も2020年に豪雨による浸水でまた被災しましたし、大雨警報で避難するのはザラ。いつ災害が起こるかわからない。だから、地元民がお互いを気にかけて合うことが本当に大事。みんなと協力して楽しみながら、この活動を長く続けたい」と語りました。



震災後、活動する中「イベント運営に向けている自分」に気づいたという丸山美奈子さん。



現在「ごはん日和」では、食材の提供を受け、毎回250食の弁当を作って配る。参加費を集めることで、続けられる仕組みにしている。※facebookで活動報告しているのでチェックしてみてください。



たしろ食堂、人気のちゃんぽん、出汁がきいておいしいお茶っ子！ 名物オムライスカスレはカツのやが人気。



全壊した櫻田酒造。瓦礫の中から「初桜」の看板を発見。「この地に酒蔵を再建するぞ！」と力強い雄叫びが伝わってくるようです。

酒蔵仲間とコラボレーションし、新たな純米酒ブランドが誕生。酒蔵があった場所は、現在は周辺の建物の解体が進み、ほぼ何も無い感じ。昨年9月の能登豪雨後も護岸工事が進んでいなくて、畳など瓦礫が橋に引っかかっているなど洪水の爪痕が残ったまま、復興はまだ。



残っていると瓦礫の中から無事に生き残った酒米が出てきました。絶望の中でそれは大きな喜びで、「これで酒を造らなければ！」と気持ちを奮い立たせ、親交のある白山市の車多（しゃた）酒造さんにすぐに連絡。酒蔵をお借りして酒造りを再開することができました。地域との絆をさらに深め、



櫻田酒造といえば「大慶」、倒壊した酒蔵から救出した酒米を白山市の車多酒造の協力を得て共同で醸造することができ、2024年特別な「大慶」が誕生しました。

しかし、本日お持ちした『天狗舞能登大慶』という酒は、うちの瓦礫の中から取り出した酒米を白山市の車多酒造さんへ運び、蔵をお借りして復活させたもの。「よくぞ生き残ってくれた」と酒米に感謝感激です。『天狗舞 能登大慶』は、うちの『能登大慶』と車多酒造さんのブランド『天狗舞』とのコラボレーションで誕生したやさしい味わいのお酒です。車多酒造九代目の車多慶一郎さん、若手の製造担当・高橋さんと協業し、うちの息子がプロデュースした新しいシヨップも開業するなど、新しい世代の活躍の場も生まれています。災害の痛手にも負けず、これからも能登の美味しいお酒を造り続けようと思っています。



金沢の伝統産業・金箔を活かし、能登支援に取り組む「箔座」

「箔座」はコレド室町に「箔座日本橋」を出店されている金沢市の企業です。金沢の伝統産業・文化である金箔の製造を通じて能登半島地震・豪雨の復興支援に取り組まれています。その一つとして、奥能登のハイデワイナリーと共同で、希少な能登産ぶどうを使った白ワインに金沢の伝統金箔を振り入れた『能登の風2024』を開発。また、箔座日本橋では箔の素晴らしさや多様性を提案するなど、さまざまな場所で能登への支援に取り組んでいきたいとお話されていました。



Special GUEST 箔座日本橋 北嶋章子さん



トークイベント終了後は、能登食材のおつまみBOXと櫻田酒造の『天狗舞 能登大慶』に舌鼓。参加者同士の交流も和やかでした。



「わたす日本橋」前のロビーには能登名産品の売店が出店し、賑わっていました。

語りわたす - お夏のがんど -

これは加賀地方で伝えられているお話。加賀の橋立で、病気の母と二人暮らしのお夏という娘がいた。大変親孝行で、毎日海に出ては、一日に百個のサザエを獲って帰り、生計を立てていた。しかしある日、99個まで獲ったものがあると一ツがどうしても見つからず、海の奥深く、誰も入ってはいないところに、今でも親から子へ伝えられているという。

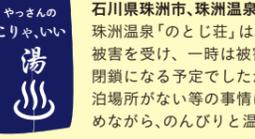
能登支援会「東北支援会プラス」のこと

東日本大震災をきっかけに立ち上げた「東北支援会」。現在は、「東北支援会プラス」として能登半島地震や奥能登豪雨への支援にも力を入れています。都心に住む人々に向けて、全国の被災地のリアルな情報を届けたいと様々な支援イベントを開催。2013～20年に実施した「復興バー@銀座」は、2011年7月に宮城県石巻市にオープンした「復興バー」を、楽しくお

いしい被災地支援として都心でも開催したもの。連日盛況で、たくさんの出会いと交流が生まれる場となりました。会の理事を務める茂手木厚志さんは「この先の10年、多様な人材が地域づくりに参画できるように、被災地と都心をつなぐ“ハブ”の役割を果たしていきたい」と抱負を語っています。



茂手木厚志さん



石川県珠洲市、珠洲温泉 珠洲温泉「のとし荘」は、能登半島地震によって被害を受け、一時は被害が大きく宿泊設備ごと閉鎖になる予定でしたが、復興の為の業者の宿泊場所がない等の事情により再開、見附島を眺めながら、のんびりと温泉を満喫できます。

能登地震の概要	
2024年1月1日 地震発生 (M7.6 最大震度7)	
1月初旬	避難者数最大5万人以上
2月下旬	最初の仮設住宅引き渡し
4月1日	ほぼ全域で電力復旧
5月末	全域で水道復旧完了
9月21-23日	令和6年能登半島豪雨発生 再び主要道路が遮断、土砂災害が重なり復旧が遅延
9月下旬	七尾市、中能登町、志賀町、宝達志水町、羽咋市の5市町が「今、行ける能登」を発信
11月時点	公費解体の申請数約2万3千件に対して解体率は6%との試算（深刻な人手及び業者不足）
2025年4月	能登最終避難所が閉鎖、仮設住宅等への避難者移行が完了
9月	現在も公費解体等、復旧作業続行中